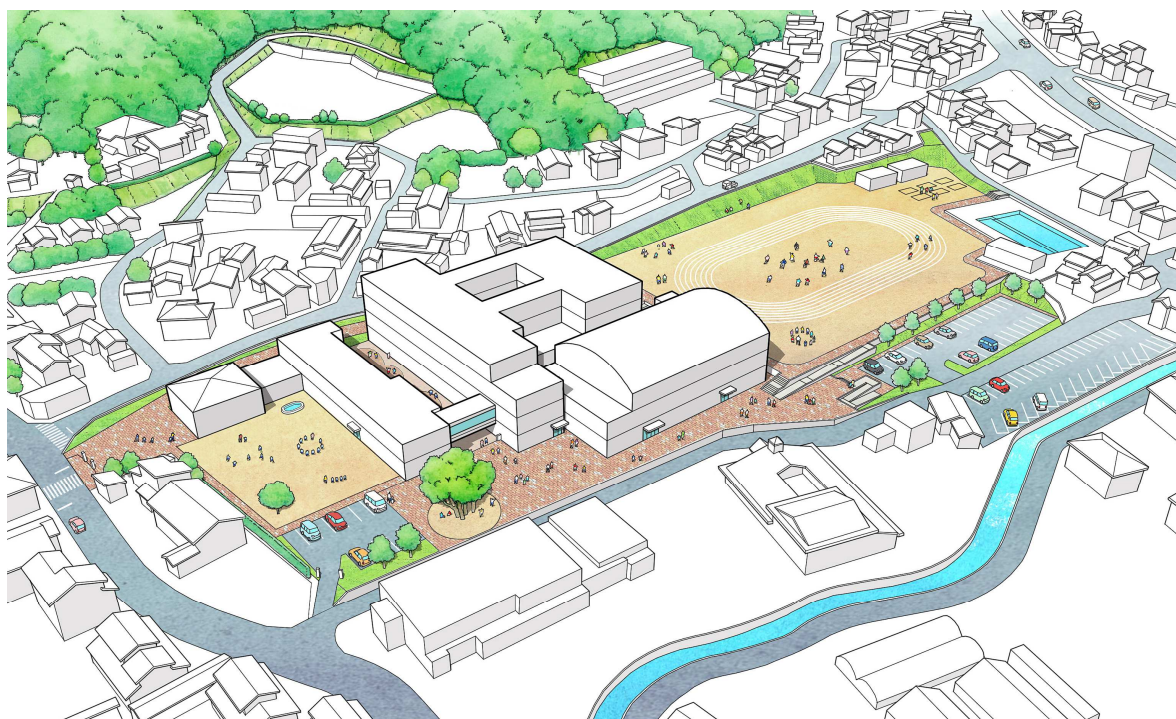


地区個別計画に基づく基本計画書（塩津地区）

概 要 版



令和 3 年 8 月

蒲郡市

第1章 はじめに

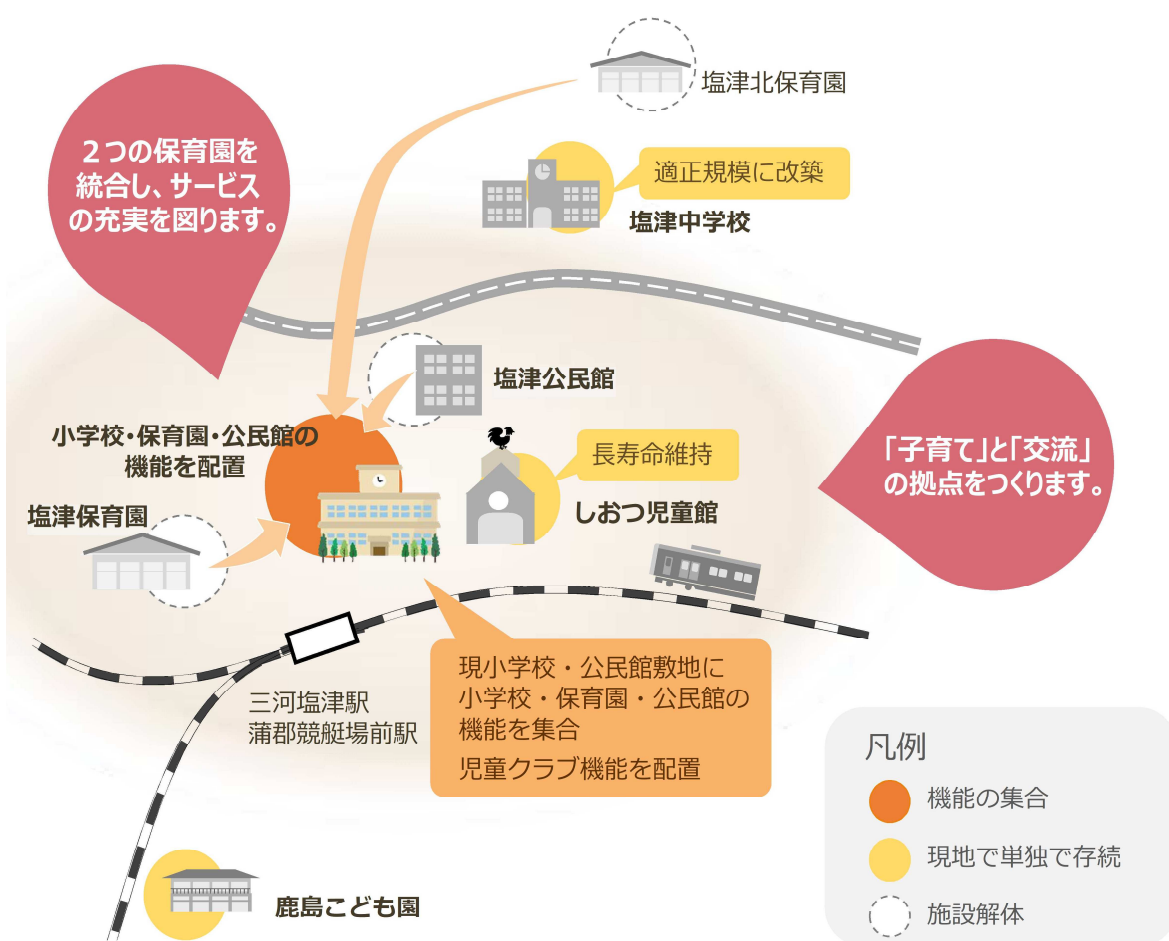
○本計画の位置づけ

本計画は、地区個別計画のコンセプトを実現するために、塩津地区の小学校、公民館、保育園及び児童クラブについて、施設の整備方法や管理運営方法等を定めるものです。

○塩津地区の地区個別計画の概要

コンセプト

集まりやすい位置に「子育て」と「交流」の拠点をつくる



施設 再編の 内容

- 小学校・保育園・公民館の機能を現在の塩津小学校と塩津公民館の敷地に集合させ「子育て」と「交流」の拠点を形成
 - 塩津保育園と塩津北保育園（※1）は統合し、低年齢児保育と延長保育が実施可能な規模の保育園を整備
 - 児童クラブの機能は、小学校と同じ敷地に設置
- ※1 塩津北保育園は園児減少のため、令和3年3月で廃園となりました。

整備を進める
配慮を
すること

- 駐車場・グラウンド等、必要な機能の維持
- 子どもの安全確保と学校教育に支障が出ないよう施設の設計や運営方法の検討
- スペースの相互利用や運営での連携の促進
- 学校と地域の連携を深め、交流を促進する人員体制や運営体制の整備

期待される
効果

- 子育て環境の充実
 - ・保育サービスの拡充
 - ・児童クラブと他施設の連携
 - ・保護者の利便性に配慮した立地
 - ・幼児教育と小学校教育の連携
- 交流の活性化
 - ・施設の集合による交流促進
- 活動の拡大・拡充
 - ・施設設備の利用範囲拡充
- 費用の削減
 - ・施設維持更新費と運営費の縮減

第2章 条件の整理と現状分析

○再編対象施設における課題の整理

計画地の敷地の形状、周辺道路の状況、高低差などの整理及び既設建物の分析を行い、さらに再編対象施設の課題と、その整備方針について次の通り検討しました。

(1) 小学校における課題

課 題

外国にルーツを持つ子どもが多く、コミュニケーションに工夫が必要な保護者も多い。また、特別支援学級に通う児童も増加傾向にある。

整備方針

- 日本語適用教室を地域の方（大人）も活用できる計画とするなど、多様性（ダイバーシティ）に対応した交流空間を整備し、交流の活性化を実現する。
- 増加する特別支援学級に対応するため柔軟な施設運用を計画し、特別な支援が必要な児童に配慮した教育環境を整備する。

(2) 公民館における課題

課 題

公民館利用率の低下と利用者の高齢化が著しい。また、バリアフリー化ができていないなど利便性が低下している。

整備方針

- 小学校・保育園と施設を集合させるメリットを活かし、施設の相互利用などにより地域活動の拡大・拡充を図る。
- バリアフリー化を行うことで、利便性の向上を図る。

(3) 保育園における課題

課 題

低年齢児保育や延長保育などの保育ニーズに応えられていない。また狭い道を使っての山の上までの送迎や、土砂災害警戒区域に位置するなど利便性や安全面での課題がある。

整備方針

- 将来の公立保育園の入所需要を予測し、保育ニーズに応えられる施設規模を確保することで子育て環境の充実を図る。
- 小学校敷地内に施設を集合させることで、送迎時の利便性を図る。
- 災害リスクが少ない場所に移転し、安全な場所での保育環境を整備する。

(4) 児童クラブにおける課題

課 題

入所希望者数が多いため、実施場所の確保が困難であり、学年によって実施場所が異なっているため送迎が不便である。

整備方針

- 小学校の敷地内に児童クラブを集約することで、送迎時の利便性を確保する。
- 塩津地区における現在のニーズや今後の人口推移を踏まえ、適正規模の児童クラブを設置する。

第3章 配置ゾーニングに関する考え方

○配置ゾーニングの決定

施設関係者の意見及び市民意見をもとに複数の案を比較・検討し、以下の配置ゾーニングを決定しました。



配置ゾーニング図

○期待される効果

上記配置ゾーニングでは、以下のような効果が期待できます。

子育て環境の充実

小学校・保育園が適度な距離感でゾーニングされており、連携がしやすく、それと同時にそれぞれの教育環境が確立できる。

交流の活性化

小学校、保育園、公民館の3つの施設が独立性を保ちつつ交流の可能性がある配置ゾーニングとなっており、交流の活性化が図りやすい。

活動の拡大・拡充

体育館と公民館が合築であり、体育館の地域開放利用者が公民館も利用しやすくなる。

検討課題に対する対応

子どもの安全性確保やクスノキの継承等、施設関係者が考える検討課題に対して概ね対応が可能である。

○市民意見の聞き取り

地域の特性を反映するため、地区の皆さまのご意見を伺う機会を設けました。これらの意見を考慮して基本計画図の作成を行います。

地区の方のご意見のまとめ

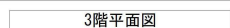
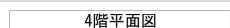
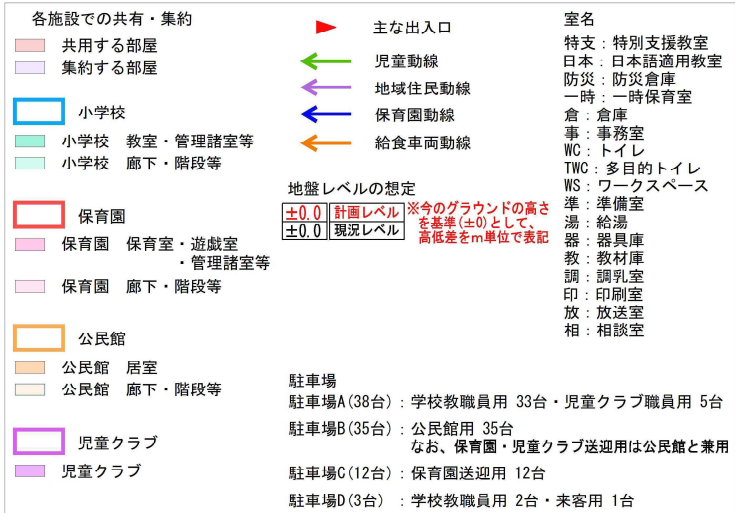
- 上記配置ゾーニングでは、各施設の連携がとりやすい、子育て環境が充実しているなど、地区個別計画のコンセプトが最も実現されているところが評価されました。
- 防災面、コスト、グラウンドの広さ、整備期間の長さなどにおいて、他の配置ゾーニング案を評価する声もありました。それらの意見にも配慮し、基本計画図を作成します。
- 既設校舎のある高台に新しい施設を建てたほうが防災面に優れるといった防災に関するご意見が多くあったため、高潮が浸水しない高さまで地盤の嵩上げを行う等の対策を講じます。

第4章 平面計画の検討

○基本計画図の策定

P3の配置ゾーニングをベースに、交流空間、部屋の共用や集約等の整備方針を具体化した基本計画図（部屋の配置）を下記に示します。





第5章 管理運営方法に関する考え方

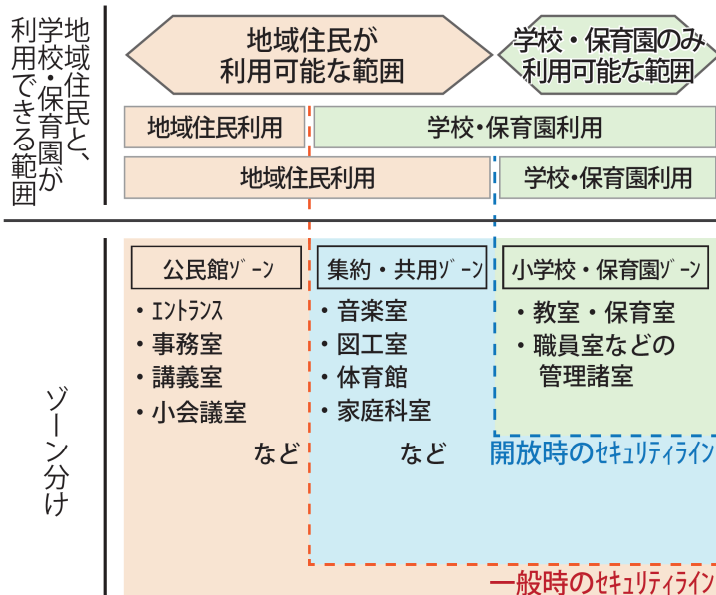
○セキュリティラインの設定

各施設の運営時間を考慮し、フレキシブルなセキュリティラインを設定します。

セキュリティライン設定の考え方

○学校が授業を行っている一般時のセキュリティラインと放課後や休日等、地域開放を行っているときのセキュリティラインの2段階のセキュリティラインを設定します。

○2段階のセキュリティラインそれぞれにおいて、学校・保育園利用範囲と地域住民利用範囲を設定します。



※授業や保育に支障なく、かつセキュリティが確保されれば、授業が行われている時間であっても、共用の部屋が空いている場合は地域の方の利用が可能となるような施設の運用を検討していきます。

○新しい施設に求められる防災機能

新しい施設は、災害時に被災者の受け入れや情報、物資の拠点として機能することを目指します。

○避難施設としての規模の検討

体育館に加えて校舎内諸室（18室程度）を避難所として使用することを想定し、塩津小学校の収容人員は1,000人（体育館370、校舎内諸室630）程度、保育園は遊戯室で84人程度とする見込みです。

○自然災害への対策

高潮の際に最大で30cm程度の浸水想定がある部分があるため、現在のグラウンド部分の嵩上げを行い、建物の1階床レベルを現在よりも40cm程度高く設定します。

○避難所として必要な機能

- ・施設集合のメリットを活かして、避難所機能の向上を図ります。
- ・断水などを想定したトイレ機能の確保、停電時における最低限の電力確保、断水時の水の確保、必要物資の確保、情報通信手段の確保、居住性の確保など、避難所として必要な機能を整備します。

第6章 事業化計画

○概算事業費

区 分	事 業 費
実 施 設 計 費 計※1	1.7 億円
工 事 費 計	39.0 億円
小学校建設工事費 ※2	24.4 億円
公民館建設工事費 ※3	4.2 億円
保育園建設工事費	5.1 億円
外構・造成等工事費	5.3 億円
総 事 業 費 ※4	40.7 億円

※1 実施設計費には地質調査、既設建物の解体工事及び仮設校舎に係る設計費は含んでいません。

※2 小学校建設工事費は、校舎、プール及び体育館として使用するエリアの建設費を算出しています。なお、体育館及び公民館（児童クラブを含む）は、同一建物となっているため面積案分により算出しています。

※3 公民館建設工事費は、公民館及び児童クラブとして使用するエリアの建設費を算出しています。

※4 総事業費には、各種調査費用（測量、ボーリング、補助金申請に必要な調査など）、備品購入費、引越費用、その他雑費関係などについては含まれていません。

※ ボーリング調査などの結果により、基礎杭や地盤改良などの費用が別途必要となる場合があります。

○施設整備スケジュール

区 分	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	5 年 目	6 年 目	7 年 目
実施設計							
工 事							

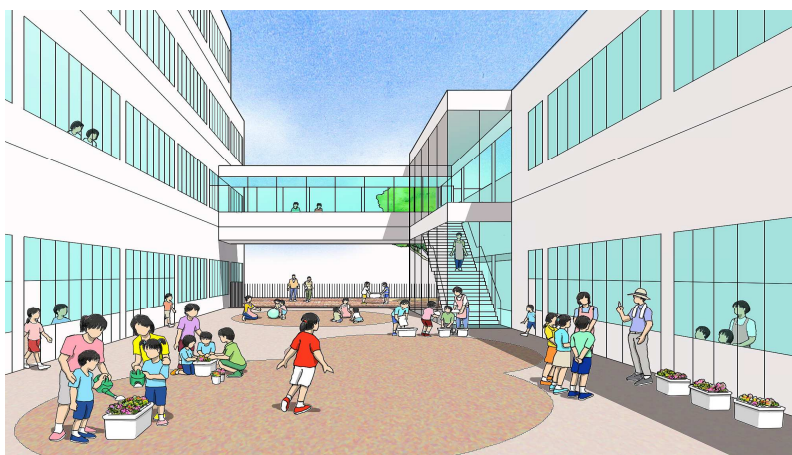
第7章 施設整備による効果

施設整備により以下のような効果が期待されます。

○子育て環境の充実

(1) 小学校と保育園の連携

- ・ 小学校と保育園を近接配置することで情報交換しやすい環境整備となり、高い連携効果が期待できる。
- ・ 「共同の遊び場」エリアにおける交流により、小学校低学年の児童は、遊びを通しての学びにつながり、保育園児は、小学校へのスムーズな進学が期待できる。



小学校低学年と保育園児の交流イメージ

(2) 保育園・児童クラブへの送迎時の負担軽減と安全性向上

- ・ 同じ敷地内に保育園・児童クラブ・小学校を設置することで、送迎等の負担軽減と、交通事故などの危険性をなくすことができる。

○交流の活性化

(1) 行事の連携

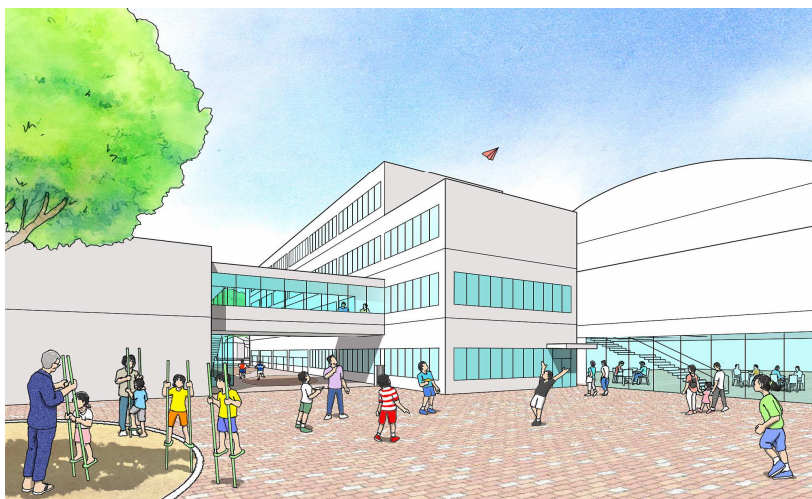
- ・ 公民館と体育館を合築することで活動の充実を図り、公民館と小学校の行事を連携して行うことで交流の活性化を図る。



交流スペースイメージ

(2) 共有空間での活動

- ・屋外広場や交流スペースは、住民・児童・園児が自然と集まる空間となり、塩津地区の世代間交流の拠点となる。
- ・塩津地区の伝統である塩づくりを、地域・学校・保育園が連携して行うことで、交流が活性化され、地区への愛着が生まれる。



屋外広場イメージ

(3) 児童クラブと地域サークルの交流

- ・公民館で実施する文化サークルに児童クラブが参加することで、多世代交流を充実させる。

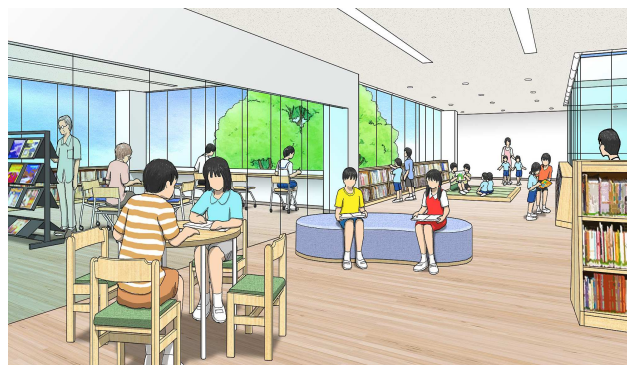
○活動の拡大・充実

(1) 学校施設の地域開放

- ・特別教室（家庭科室や図工室など）を地域住民に開放することにより地域活動の幅が広がる。

(2) 図書室の地域開放

- ・図書室を地域開放することで地域住民が集まる拠点とする。また学校や保育園と地域で相互利用することで図書室機能の充実を図るとともに、高齢者が児童や園児へ読み聞かせをするなど活動の幅が広がる。



小学校、公民館、保育園が互利用可能な図書室のイメージ

地区個別計画に基づく基本計画書（塩津地区）概要版

発行・編集 蒲郡市総務部公共施設マネジメント課
〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町 17 番 1 号
TEL：0533-66-1214（直通）
FAX：0533-66-1183